

# 自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## 記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## 用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## 評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目( 1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目( 88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	愛の家グループホーム新潟鳥屋野
(ユニット名)	第2ユニット
所在地 (県・市町村名)	新潟県新潟市
記入者名 (管理者)	早川恵美子 保坂 勝志(管理者)
記入日	平成 21 年 5 月 10 日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>1. 理念に基づく運営</b>				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	独自の理念があり、地域のサービスに役立てるよう、実現に向けて取り組んでいる。各ユニット内でも理念があり、職員が全員が前向きに行動し取り組んでいる。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎月の全体会議で理念を唱和し、管理者より目標・方針など報告されている。ユニットリーダーからも実践に向けての伝達が行われており、全職員が理念を共有し、日々実現に向けて取り組んでいる。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	家族や来訪される方が目にしてくださいる様に、玄関ホール、ユニットリビングに理念の明示をし、パンフレットなどの掲示もしている。 入居相談、契約時、運営推進会議の場で理念の説明と実現に向けての取り組みも報告している。		
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	隣近所の人々や子供達を招き、よさこい踊りを行ない、入居者・家族と共に踊りに参加して頂いたり、挨拶まわりや、連絡なども行っている。日々、気軽にホームに立ち寄ってくださる様に努めている。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	入居者と共に、自治会のお茶の間会に参加したり、老人会、保育園、小中学校等の交流を図っている。ボランティアの受け入れも行われている。地域の他施設研修や大学の実習の受け入れもおこなっている定期的に挨拶まわりも行なっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	平成19年12月より認知症対応型通所介護の事業を開始。在宅の認知症の方々にも、事業所や職員の経験を活かして何か役に立てないかを話し合い、事業を開始し、サービスの提供に取り組んでいる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義は運営者、管理者、職員共に、理解して、評価を活かし改善に取り組んでいる。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回、開催されていて、ホームの運営状況、活動報告、利用者やサービスの実際等を報告し、参加メンバーより意見や助言を頂きながらサービスの向上に努めている。 地域の状況や行事、集い等、いろんな話を頂いている。地域包括支援センターとも協力しながら、サービス向上に活かしている		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村の担当者には運営上の報告や相談、助言等を直接行ったり、電話等でも行って、サービスの向上に努めている。市からも運営に関する相談を逆に受ける時もあり、関係づくりに努めている。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	入居者の中で、地域権利擁護事業を利用されている方がいたり、成年後見制度を利用されている方もいる。職員は、制度の理解や活用を実践の中で学んでいる。また、全体会議で制度の説明や、資料を配布して学んでいる。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全体会議で学ぶ機会を持ち、資料を配布して防止に努めている。マニュアルも完備されていて、日々の業務の中で、周知徹底されている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4.理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>管理者が家族の不安や疑問点、契約、解約に関する十分な説明を行ない理解の上、納得を図っている。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者の意見や不満、苦情に関しては、職員に話せるような環境ができていて、管理者にも直接話をしてきたり、いろんな話を事務所で伺っている。家族に相談したり、関係機関に相談したりして、本人の希望に添うように対応している。</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>月に1回のお便りで健康状態、生活の様子、行事や活動の案内、法人の連絡事項等をお知らせしている。金銭管理等も領収書、出納帳をお送りしている。また随時、個別に面会時や電話等で報告や相談をしている。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情相談窓口の設置や意見箱の設置がされていて、契約時や面会時等に説明している。また、できるだけ家族が意見が言えるように報告、連絡、相談をこまめに対応している。法人としても、独自の家族アンケートを活用して、意見、不満、苦情等を表せる機会を設けている。</p>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>日常的や、ユニット会議等で職員の意見、提案をまとめ、管理者に提出し意見を求めている。また、全体会議で提案や意見交換の機会が設けられ反映できている。運営者にも随時、意見や提案がなされて運営に活かされている。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>入居者の状態に応じ、勤務の内容や人員も柔軟に調整し、入居者・家族に支障がないように対応している。</p>	
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>現在、異動、離職がほとんどなく影響はないが、代わる場合は、馴染みの関係が早くできるように事前に交流を図り、影響がでないように配慮している。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人として、新人研修や職員研修、リーダー研修、計画作成担当者研修、管理者研修等の計画を立てて受ける機会の確保やトレーニングを行っている。ホーム内においても年間計画を立てて毎月実施されている。		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他グループホームに見学や行事、研修に参加させて頂いたりしたり、運営上で相談したり、教えてもらったりする関係を築いている。		
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	法人として、ヘルプデスクという部署があり、仕事の悩みや相談ができるようになってきている。また、こころの相談窓口という窓口も設置されている。運営者は、定期的にホームに来て、管理者や職員と話をしたり、納涼会や忘年会等の場をつくっている。職員のヒアリングの場もあり、相談や助言ができる環境がある。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者は、向上心を持って働けるように、管理者会議や職員会議、電子通信にて、自己啓発や向上心に向けた話や事例などを伝えている。個々に対して、ヒアリングの場も年2回あり、その場で個々に合わせての働きかけを行っている。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居相談、見学、審査等、入居までの間に本人の状態や今までの生活の様子、要望や希望などを伺って、安心して生活出来るように配慮しながら対応している。また、認知症対応型通所介護事業も開始し、入居するまでの間、利用して頂き、信頼関係を築く機会もある。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居相談、見学、審査等、入居までの間に家族様の困っている事、不安な事、要望等を聴きながら対応している。また、認知症対応型通所介護事業も開始し、入居するまでの間、利用して頂き、信頼関係を築く機会もある。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期対応の見極めと支援としては、現在の本人の状態や家族状況等を伺って、何が必要か考え、さまざまな視点でホームサービスと他のサービス利用も含めて対応、支援している。手続きや申請等、サービス利用の方法も説明している。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用する前にホーム見学やユニットで入居者と一緒に過ごして頂いて、本人が安心して、納得した上でサービスを開始するようにしたり、家族と相談しながら環境に慣れるような工夫をしている。 また、認知症対応型通所介護を利用して頂き、環境に慣れて安心して利用できるような体制も確保されている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	レクリエーションで昔の遊び(あやとり、お手玉、ちまき作り、庭の花づくり)等を取り入れたり、畑で収穫した野菜で料理したり、懐かしい場所に出かけたりしながら、喜怒哀楽を共にし、いろいろ教えてもらったり、手伝いながら支えあう関係を築いている。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族が気軽に面会に来られるように話していて、職員も支援の相談や助言を頂く場面を多く設けて対応している。また、夏まつりやよさこい踊りに招待し、入居者、家族、職員と共に楽しみ支えあう関係を築いている。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族の協力を得て、できるだけ面会や外出など良い関係が多く持てるように支援している。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の考えも配慮し、友人や知人への面会や年賀状やお便りの声掛けをしたり、家族、親戚の面会など関係が途切れないように支援している。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	全員が参加でき、楽しめるレクリエーションの設定や入居者同士の関係を把握し、食席などの気配りやコミュニケーションづくりをし、良好な関係ができ、支えあえるように努めている。また、他ユニットへの散歩や行事、催し等においても関わりが持てるようにしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約が終了されても、将棋のボランティアや相談、ホームの活動の助言等を頂きながら関係を大切にしている。家族の意向や事情を配慮しながら対応している。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	朝の起床や食事、入浴、買い物の希望等、本人の希望や意向を受け入れて対応している。一人ひとりの思いや、暮らし方を尊重し、取り組んでいる。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用申し込み時や入居審査、入居時、入居後において、これまでの暮らしの把握に努めている。センター方式やホーム独自のアセスメント用紙を利用して全入居者の把握ができています。 また、本人や家族にも話を聴いて把握している。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	センター方式やホーム独自のアセスメントシートやモニタリングシート等を活用し、家族と相談しながら、一人ひとりの有する力等の現状を総合的に把握し努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族、職員、関係機関等と課題やケアのあり方、様々な状況を考え、本人がより良く暮らすための介護計画を作成している。モニタリングにおいても、いろいろな意見やアイデアを取り入れて作成している。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1回は、必ず評価、見直しを行ない、状態の変化が生じた場合は、必要に応じて現状に即した新たな計画を検討し作成している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々、一人ひとりの生活状態や健康状態、変化等を個別記録に記入し、情報を共有しながら検討し、実践や介護計画に活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の要望や意向に応じて、受診や買い物、趣味、特技、介護保険上の相談、各種申請等できるだけ柔軟に対応できるように支援している。又、認知症対応型通所介護事業も行なって、在宅の認知症の方々にも支援ができる体制が確保されている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	消防、警察、自治会、民生委員、他ボランティア組織などの協力体制ができており、協力しながら支援している。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人の意向や必要性に応じて、地域独自のサービス(おむつ券の支給、訪問理美容、地域権利擁護事業、生活保護制度の利用、ボランティアの利用)等、支援をしている。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターとは、運営推進会議等をはじめ、入居相談、紹介、ケアマネジメントの相談、地域に対しての啓発・浸透の説明会の開催、地域の事業者との関係づくり等、協働して関係を築いている。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られた医療機関で受診できるように相談しながら支援をしている。また、かかりつけ医とも適切に対応できるように、相談や指示を受け事業所としての関係を築いている。		



項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	内科往診病院の体制があり、認知症症状の必要性に応じて、専門医の受診を支援している。また、協力病院に認知症の専門診療科があり、検査や診断、治療等の支援も行っている。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	ホームで看護師を配置し、日常の健康管理や緊急対応、勉強会、地域の医療機関への受診支援等、支援をしている。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院の場合には、管理者、ユニットリーダーが常に医療機関との情報交換や相談を行ない、連携を図っている。早期退院に向け関係者と状態や状況を検討しながら支援している。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	早い段階から家族、医師と相談しながら、今後の方針や対応について話し合っている。本人、家族、医師、ホームの共通理解、協力体制等を確認しあいながら、全員で共有し対応している。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	早い段階から家族、医師と相談しながら、今後の方針や対応について話し合っている。本人、家族、医師、ホームの共通理解、協力体制等を確認しあいながら、全員で共有し対応している。 職員も日々をより良く暮らせるように勤務体制やあらゆる変化に備えて検討や準備を行ない対応している。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	住み替え時においては、本人の状態や生活状況、家族の意見、医師等、関係者と良く話し合い検討し、ダメージを防ぐように努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>運営理念にもあるように、個人の尊厳を大切に、一人ひとりの能力や人格を把握し、プライバシーを損ねないように言葉遣いや対応に努めている。また、全体会議やユニット会議においても適切な対応に努めるように話し合っている。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>生活全般(食事、おやつ、入浴、更衣整容、睡眠、活動等)において本人の思いや希望、状態を把握しながら自己決定や主体性をもてるように支援している。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>業務の都合で職員のペースにならないように、話し合いや会議の中でも確認し合いながら、一人ひとりのペースを大切に過ごして頂けるように対応している。</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>更衣時には、持ち服の中から希望に応じた服を選んでもらっている。理美容に関しては、職員が散髪を行ったり、本人の希望があれば、訪問理美容や外の理美容店に出向く支援をしている。</p> <p>身だしなみには常に気配りをしながら、本人が喜んだり、生き生きできるように努めている。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>食事はみなさんが楽しみにしていて、好みや力を活かしながら食事の準備や食事、後片付けを一緒に行っている。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>飲み物は、本人の望むことはできている。おやつは、個々の嗜好を把握しており配慮している。家族と共に嗜好物を食べて、和む場面づくりもある。晩酌なども希望があれば、見守りをしながらの受け入れはできている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個々の排泄パターンを日々把握し、一人ひとりの力や状態、習慣に応じて気持ちよく排泄できるように支援している。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	浴室前に、本日はレモンの湯、櫻の湯などと入浴剤の色に合わせた温泉マーク入りの看板が出ていて、個々の持病の効果も表示し、入浴を楽しんで頂けるように工夫している。曜日や時間帯は、個人の希望やタイミングにできるだけ合わせて対応している。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中はできるだけ散歩やレクリエーションなどで体を動かしていただき、夜間の安眠の支援をしている。眠れないときは、話を聞いたり、お茶を飲んだりしながら安心して眠れるようにしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食後の食器の片付け、毎朝の日暦めぐり、洗濯物たたみなど個々に合った役割があり、生活歴の力を出し、楽しみながら生活をする支援をしている。趣味や特技も活かしながら気晴らしの支援をしている。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの希望や力に応じて、個々で管理している方もいれば、ホームで管理している方もいる。希望があれば、いつでも使えるように支援している。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候状況を考えながら天気の良い日は、ホーム周辺の散歩をしたり、買い物やドライブ、外出行事、家族との外出等の支援をしている。ホーム内でも他ユニットの散歩や行き来は、毎日行っている。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	本人から行ってみたい所や希望を伺い、外食や買い物、季節に応じての観光やドライブをしている。家族とともにでかける機会もつくり、食事や自宅、お墓参り等の外出もされている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族、友人、知人等に電話をされたり、年賀状や暑中見舞い等のお手紙もやり取りがされている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族や友人等、馴染みの人達の訪問の際には、職員も明るく声掛けをし、お茶を出すなど本人の居室以外にも気兼ねなく過ごせるようにソファを置いた空間スペースの工夫をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員一人ひとりが認識しており、マニュアルや要綱を整備し、何が身体拘束にあたるかを常に検討し実践している。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	運営者や全ての職員は、居室や日中玄関に鍵をかけること弊害を理解している。開放的になるようにユニット間や玄関は、事故が起きないように配慮しながら対応している。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	入居者の所在、様子は、プライバシーに配慮しながら把握しており、夜間は安眠をさまたげないように巡視を行って安全確認を行っている。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	一人ひとりの状態に応じた注意物品を見定めて、見守りや確認を行ない危険防止に努めている。家族とも相談して検討している。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故防止のマニュアルや資料もあり、会議やカンファレンスで事故防止の対策を常に話し合っている。一人ひとりの状態を把握し事故防止に努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急変や事故の応急手当に関するマニュアルや定期的に看護師からの勉強会、消防署からの講習会等、訓練を行っている。 実践でも職員は対応している。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の指示のもと定期的に火災、避難訓練を行っており、必要物品も確保されている。定期的に点検を実施し、マニュアルもある。また、自治会や近隣住民との協力も話をしている。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	一人ひとりに応じて起こりえるリスクについては、その都度家族に説明し、意見や対応策を話し合っており、対応している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝、バイタルチェックを行ない、個々の日常生活記録を元に体調の変化を把握し、朝、夕のカンファレンスで検討して異常や変化の早期発見に努めている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤の説明書を入居者個々の記録ファイルに綴り、いつでも確認ができ、医師からの指示は全スタッフが周知しており、服薬時は必ずスタッフが付き添い、確認ができている。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎日の排泄チェック表を参考に個々の体質に合わせた食事、水分摂取、運動、散歩の支援を行っており、状態に応じては、医師の指示及び服薬対応もできている。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の歯磨き、入れ歯の手入れについては、声掛けや手入れの支援を行っている。入れ歯については、専用消毒を行ない、必要に応じては、協力歯科医の指導も受けられる。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の食事量、栄養バランスは献立表にあり、水分も確保できている。一人ひとりの状態や力、習慣に応じて、お茶等は自由に飲めるようにしてあり、声掛けの支援をしている。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	外出からのうがい手洗い、食前の手洗い、口腔ケアなどは習慣とし、感染症対応マニュアルに沿って実行している。インフルエンザに関しては、入居者、職員全員が予防接種を実施している。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	台所や調理器具は、毎日洗浄し衛生管理に努めている。食材も毎日仕入れをし、新鮮で安全な食材を使用して管理している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関まわりや中庭には、季節の草花を植えたり、玄関内は季節感や家庭的な雰囲気を感じてもらうように観葉植物や花瓶に草花を飾り、季節の写真を掲示して工夫している。また、環境整備の日を設けて、草取りやゴミ拾いなど行ない居心地のよい環境づくりに努めている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間にはソファが設けてあり、観葉植物などでゆったり休める配慮がなされている。食堂には季節の草花を飾っている。また、テレビ音量の調節やレースカーテンでの光の調節による工夫を行っている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂とは別にソファを置き、雑誌や本が置かれ、観葉植物に囲まれて芝の中庭がみわたせる静かなスペース空間を設けている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にこれまでの使い慣れたタンスや家具、装飾品を持ち込まれて、本人の希望に応じた配慮がなされており、居心地よく過ごせるように支援している。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	入居者の状況に応じて、換気や温度調節は、こまめに行っている。 居心地のよい環境に努めている。また、施設係りを中心に会議を開催し意見を出し合い実施している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーになっており、廊下には歩行の妨げにならないように物は置かないように心掛けて、トイレなどの行き来は、すべて手すりが設置しており、安全に心掛けている。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室には、のれんや表札があり、トイレや浴室にもものれんや表示があって混乱や失敗がないように、自立して暮らせるように工夫してある。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物の周りは散歩コースになっている。中庭には芝を植え歩きやすく、散歩や日なたぼっこができて、裏庭には菜園があり、収穫を楽しみ、フェンスは選択干し場として活用している。		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	



項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

平成19年12月より認知症対応型通所介護サービスを開始し、入居利用者の介護と平行に支援を行なっている。家族様より良い評価を頂き、職員も現在、自信をもって介護業務にあたっている。今後も認知症の専門性の知識を深め、実践の中で経験を深め、日々質の高い介護を目標に家族との連携と協力を得て、少しでも地域の高齢者の暮らしに役立てる努力を続けていきたい。